

---

**青い春と書いて青春 私たちのBLUE SPRING**

流星群

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青い春と書いて青春 私たちのBLUE SPRING

### 【Nコード】

N6591Y

### 【作者名】

流星群

### 【あらすじ】

星野ヶ原市に有る星野ヶ原第一中学校。

ごくごく普通の公立中学校だ

義務教育最後の皆と呼ばれる3学年

中学校最後の年に主人公はどのように過ごすのか？

## プロローグ

「…3年2組か」

クラス分け掲示板の前にはたくさんの人がたかる。

人ごみの間から自分の名前を探す。

星野ヶ原にも春が来ている。

私は前原京子

此処、星野ヶ原中に通う中学3年生。

外見は…よく言う真面目キャラ

お世辞にも可愛いと言えないセーラーのスカートやスカーフも決められた長さ、べつに改造する理由もないから

特徴といえば、目つきの悪さ。

意図的ににらんでいるわけではないが、にらんでいると思われる着いた渾名は<絶対零度>

さて、クラス分けも発表され、私は前の学年…つまり2年生フロアに向かった。机の上には皆それぞれの段ボールが置かれ、何人かの机の上には亡くなっている。誰が何組に行ったか知るわけもなく私は4階へ段ボールを持って上がる。

「誰も…いない」

教室には誰も着いてはいなかった。そりゃそうだ、ただいま7時20分大抵のピークは7時50分からだ

出席番号的に窓際になった席に腰掛け、持ってきた小説を開く

## プロローグ（後書き）

初めまして、流星群です。

こんな駄作を読みに来ていただきありがとうございます。

さてさて、プロローグはどうでしょうか。

これからクラスメイト達がやってきます。

それでは、第一話で会いましょう！

## 1話 喧騒

段ボールは足元に置き、小説を読んでいると誰かが来た。ショートカットの髪をした2人組。スカートの丈もスカーフも校則違反している

絶対にかかわりたくない奴らだ。そいつらは私をみると嫌みたらしく、大声で言う

「うわー前原じゃん。目つき悪いと嫌われるよね〜」

(丸聞こえですけど)

「やっぱ、むっつりってキモイよね〜」

(むっつりって…むっつりでは無い!)

読書を続けながら、突っ込みを続けていると男子やその他女子がやってくる。

やはり私をみると、こそこそと話私を見ないようにする。面白くなった私は、彼らをきよるきよると見回すと全員2歩下がるとクラスメイトを見て

「何しているの」と聞くと黙って全員席に着いた。

クラスメイト達には避けられるが、いじめられはしない

なぜなら 目つきだけで人を殺せる女 とも呼ばれる位だ。何をされるのかが分からないかららしい。

こそこそと陰口を言うのが、ギャル系の校則違反どもだ

8時15分になり先生がやってくる。

誰が先生なのかという期待の中やって来たのは

理科の市原彩子だ

別名：ハゲ子

髪が少ない遺伝が故に地肌が見えている。つまり、禿げたように見えるのだ。

クラスのブーイングの中出席を取る市原先生。

よく、この喧騒の中出来るよなと感心していると、例外なく名前を呼ばれる

「前原京子さん」

返事するの面倒なので手をあげ、先生をlookする  
いる事が確認できたので先生は次の奴を呼ぶ。

喧騒の中四階の窓から見たのは、星野ヶ原市の街でした

## 1話 喧騒（後書き）

どうも

第1話どうでしたか？

クラスメイトと初っ端から上手くいかないようすの京子とブーイングを受ける彩子先生

さて、この後3年2組はどうなる事やら？

では、第2話で

## 2話 記憶と奴

出席を取り終え、手紙類を配り、春休みの宿題を集める。

今度は教科書、国語・数学・社会（公民）・英語・資料集・ワーク・移行教材：机の上には真新しい教科書類が山積みになる。

「乱丁などないか、確認してください」

先生の声が、喧騒の渦に飲み込まれてゆく。教科書をぱらぱらとめくると、真新しいインクの匂いがする。名前ペンで名前を書いてゆく。

作業が終わり、窓の外を眺めていると斜め後ろの席の奴に背中をつかれる。

「何？」

「前原京子？だっけ」明るい黒髪を少し伸ばした男子が聞く

「ええ、何？渡瀬成也」

「…よく名前を知っているな」

「出席の際に聞いた」

「あつそ」

「何の用？」

少し冷めた目で見ると、成瀬も真面目な顔になり、制服のポケットから写真を出す

「コイツ、知っているか？」

それは、3年前に事故死した大阪陸斗だ

「大阪陸斗」

「やっぱり」

「何を？」

「1年の時7組だろ」

「ええ」

「お前だけか…」意味深な目で天井を仰ぐ成瀬

「コイツを覚えているのが？」彼の手許に再度視線を移す



「ああ、やはり」

「で、だから？」

「因みに、1組から8組の連中全員に聞いたが、覚えている奴は誰もいない」

「それが何か？」

「ホント、お前って冷たいよな！」

突然怒りだした成瀬

「そこ！煩い！！」先生が指を指して怒鳴る

ふと、怒鳴り声で思考がスパークした。

そうだ、大阪陸斗と成瀬は友人だった。でも、何故私だけが大阪陸斗を覚えているのか？

衝撃的な事件のはずだが…

でも、何故か事件の概要が思い出せない。事故死だった。それしか覚えていたない

思いふけっていると、成瀬からメモが来た

<放課後、少し残れ>

手許にはメモと先生との2者面談の紙が置いてあった。

## 2話 記憶と奴（後書き）

ども！

第2話いかがでした？

成瀬と陸斗と京子

3人の接点は？

では、第3話で

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6591y/>

---

青い春と書いて青春 私たちのBLUE SPRING

2011年11月20日20時24分発行